

ノイエスだより

ノイエス朝日(朝日印刷工業株式会社)
群馬県前橋市元総社町七三一五
TEL 027・2555・3434
FAX 027・2555・3435
http://www.neues-asahi.jp

ノイエスの国道沿いの銀杏並木もそろそろ色づきはじめ、秋風が吹く季節となりました。そんな季節の移り変わりに東日本大震災の被災地はもちろんだら、度重なる台風での被災地も大きな悲しみと毎日の片づけに追われる日々。ニュースの映像からは、日常の生活をあたりまえのように過ごしている自分の中に、自然が与えてくれる豊かさ、美しさへの感謝とともに厳しい残酷な自然と向き合わなければならぬ現実を感じています。被災地での映像から強く立ち直ろうとする多くの人々とボランティアのたゆまぬ姿に感動すら覚えます。

十月から十一月に入り県内外の展示会も多く、ノイエスの展示会の合間をぬって走り回っています。

東京、館林、足利、桐生、高崎、富岡そして前橋市内と展示されている新作との出会い、今は亡き懐かしい作家たちの数々の作品。

息づかいが感じられるマチエール、長い間抱え込んだテーマを深く抉り出すように表現し続けた作家の思い。

表現者に向き合うということは、その人生そのものと向き合うということ、度々その重さを受けとめることへの自分の平常心の維持と少しの責任も感じます。

先日「ノイエスだより」にニューヨーク公共図書館の映画のことを書きましたが(図書館の舞台裏)、展示会の表舞台と裏舞台があるとすれば、作家にとつての舞台裏がどれほどの重要なものであるか、また企画者にとつての舞台裏もどれほど重要なものであるかを長年の経験から肌で感じています。作家との打合せ、展示会までの数々のチェック事項、案内状作成や報道関係や作家、お客様への告知方法、出品内容の確認、展示方法、会期中の接客や販売、数限りない裏仕事があります。

しかし、作家の中では、それ以上に多くの人々に新作を見てもらう大きな重圧、不安と嬉しさと複雑な思いを持ち続け初日を迎えることになりました。

展示会に行かれた時は、作品と向き合う時に一度目を閉じて、気持ちを無にしてから作品と向き合つて鑑賞されると、線や色彩そしてマチエールから作家の息づかいが感じられると思います。

表現方法の多様化で音や光などの作品との出会いもまた興味あるものですが、年齢を重ねると新しい表現方法に初めから心を閉じてしまう人もいますが、一度目を閉じて、しっかり向き合つてみると新しい発見があるかもしれません。

(武藤)

ノイエス朝日「展示会」のご案内

瀬下充代展 絲の行方 〈企画〉

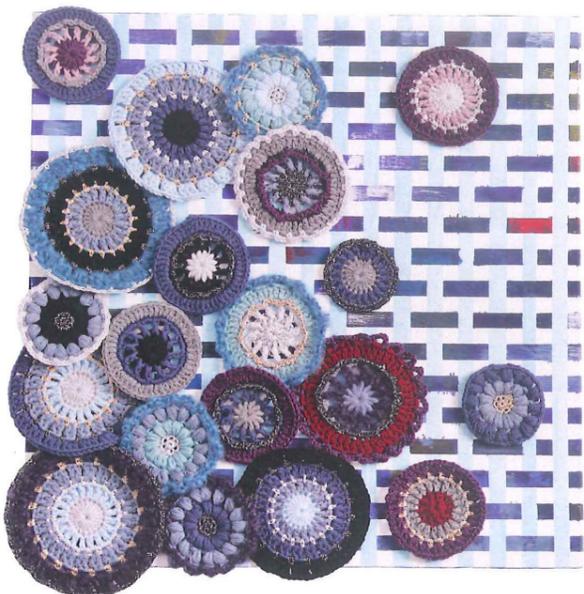
会期 十一月九日(土)～十七日(日)
午前十時～午後五時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

瀬下充代さんのノイエス朝日での初めての個展です。規則正しく打ち込まれた釘に色彩豊かな糸を張っていく作業は緊張感とともに心の静けさを求められることでしょう。時計の音と風の音が空間を支配しているような時間の中での姿が見えてきます。写真撮影で大作を手にした時、瀬下充代さんの糸や布に対する長年の愛情が感じられ、女性としての強さと優しさを作品の中に見ました。

梁瀬江里子 ニットサークル作品展

会期 十一月十九日(火) 午後一時～五時
二十日(水) 午前十時～午後五時
二十一日(木) 午前十時～午後四時
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

*終日ニットカフェ開催



うつわ彩々

高橋芳宣 展 〈企画〉

会期 十一月二十三日(土)～十二月一日(日)
午前十時～午後五時(最終日、午後三時終了)
会場 ノイエス朝日 スペース1・2

高橋芳宣氏の作品との出会いは二十年以上になります。九谷焼の須田菁華(三代目)窯に入門後、加賀市にて独立開窯を経て、平成四年に甘楽町に陶房を移し開窯、現在に至ります。高橋芳宣氏の作品には「花」があります。春の山菜、夏の素麺、秋のキノコ、冬の湯豆腐と四季折々のいろいろな料理を楽しみながら味わうのに味を何倍にも美味しくしてくれる不思議な力があります。それは長年の鍛錬された技術と洗練された感性から生まれてくるものなのです。

初めは小皿から揃えはじめ、今では、おしゃやかなテーブルセッティングが楽しめるようになり生活を豊かにしてくれています。

是非、新しい出会いを見つけてください。

ノイエス朝日今後の展示会

難波多輝子展 かけらをかさねる 〈企画〉

― 絵画 木版画 小さな立体 ―
十二月四日(水)～十一日(水)

*

萩原敏孝作品展 〈企画〉

十二月十四日(土)～二十二日(日)

十二月の二企画の案内状は次回にお送り致します。ノイエス朝日は、展示会以外はお休みをしています。ご連絡、お問合せは会期中にお願い致します。